訪問看護を必要とされている方へ

訪問看護をあなた自身やご家族が
必要かもしれないと感じたら、
おひとりで悩まずにご相談ください。

あしたば
ASHITABA

ロゴマークのこぼれ話

このロゴマークは、ネーミングからデザインまで、すべて稲沢市民病院とあしたばのスタッフで作成しました。ネーミングの由来は、生命力の強さの象徴として稲沢市の特産物である「あしたば」から名付けました。コンセプトは、縁でつながり、縁を結ぶです。

下記までお問合せください。

- 主治医
- ケアマネジャー
- 地域包括支援センター
- 当院の患者サポートセンター
- 入院治療中、外来治療中の方は看護師
- 訪問看護ステーション「あしたば」

などにご相談ください。

※介護保険、医療保険によって利用開始の流れや条件が異なります。

あしたばのHPは
下記の2次元コードより
ご覧いただけます。

【あしたば連絡先】
Tel 0587-32-2901
受付時間：8:30～17:00（平日）

稲沢市民病院 公開講座

あなたの価値観をカードゲームで

頭と体を使うゆび体操！

今回の公開講座は「あなたの生き方をともに考える医療へ。」をテーマに開催され、市民102名が参加しました。野村医師は、11月14日の「世界糖尿病デー」にちなみ、糖尿病は心筋梗塞や脳梗塞、がんなどの合併症を引き起こす可能性があるため、日頃からの予防と継続的な治療が重要であると説明しました。

続いて貝沼医師は、当院は患者さん主体の医療を大切にし、意思決定支援に力を入れていると紹介しました。人はいつ何が起こるかわからないからこそ、本人の意思が最も大切であり、「自分の人生の物語をどのように締めくくるか」を考える視点で支援することの重要性を訴えました。

最後は、栗田看護師がアドバンス・ケア・プランニング（ACP 人生会議）について「大切な人と価値観・受けたい医療・受けたくない医療について考えたり、話をしたり準備をすること」と説明しました。自分の思いを言葉にできなくなったときに備え、信頼できる人に伝えることがACPの第一歩であると呼びかけました。

【参加者アンケート結果】アンケート回収率：約 49 %(50/102)
公開講座の満足度　とても満足：36.7%(18/50)おおむね満足61.2% (31/50) 、どちらでもない2.1% (1/50)となりました。
最も興味深かった講演は、「救急における意思決定支援について」：69.6%（32回答/50）となりました。ご協力ありがとうございました。

稲沢市民病院ニュース
発行日　令和8年1月25日
発行元　稲沢市民病院広報委員会
電話　0587-32-2111
Fax　0587-32-2151
E-mail hospital@city.inazawa.aichi.jp

広報誌バックナンバー

＼稲沢市民病院／

病院 News.

inazawa municipal hospital news

Vol.105
2026. February

病気とともに、この家で“私の毎日を生きたい。”

my home

この家には、私の歴史がつまっている。
におい、思い出。普段通りの暮らしが、
病気になってもつづけられないのか？

今月号は、訪問看護ステーション「あしたば」特集です。

がんの痛みがあっても、人工肛門の管理が必要でも、認知症でも
慣れ親しんだ家でずっと暮らしていきたい。
あなたに「あしたば」の存在を少しでも知っていただけたら
という想いから今月号は発信していきます。

訪問看護ステーション「あしたば」

稲沢市民病院の訪問看護ステーションとして私たちは、「すべての生きるを支援する」を理念に掲げ、24時間365日訪問看護を行っています。これまで病院の中で受けていたような医療的な処置も専門分野の看護師が担当します。病気があってもあなたの望みを叶えるために100人100通りの暮らしに伴走します。

Q 訪問看護って何ですか？

Ⓐ 看護師がご自宅へ訪問し、医師の指示とケアマネジャーのプランに基づいて、おひとりおひとりにあわせた看護を提供しています。健康状態の悪化防止や、回復に向けてのお手伝いをはじめ、病院と同じような医療行為も行っています。最期までご自宅で過ごしたい方が、安心して生活ができるように医療的なケアや生活のサポートもします。

Q どんな方が利用できますか？

Ⓐ **下記のような方が利用できます。**

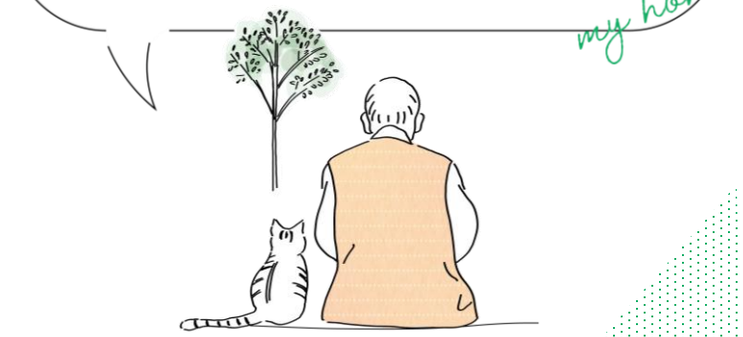
- □ **医療的処置の必要な方**
  点滴、胃ろう、人工肛門、気管切開、尿管、カテーテル交換、インスリン注射、床ずれのケアなど
  ※ 専門性の高い「特定行為研修を修了した看護師」と「認定看護師」が同行訪問も行っています。
- □ **飲み込みのリハビリや食べるための支援が必要な方**
- □ **認知症の方**
- □ **がんの終末期で、痛みやだるさなどのつらさがある方**
- □ **療養生活や介護方法の相談や支援が必要な方**

（詳しくは、裏ページに記載されている相談先へご相談ください）

Q 夜間の急な体調変化は？

Ⓐ **“24時間365日”いつでもサポートさせていただきます。**

ちょっとした体調の変化も不安になります。「すぐに相談したい」そんなときは、夜間でもお正月でも構わずご相談ください。
私たちはいつでもあなたとつながります。



Q 気持ちが変わったら？

Ⓐ **訪問看護をはじめた後でも状況に合わせて病院や施設に移ることもできます。**

在宅で暮らしていた方が、病状が変化したり、ご家族の状況の変化などで、気持ちが変わることは自然なことです。その時々の思いを大切にしてください。
あなたがいま、暮らしたい場所を一緒に考え、次の暮らしの場所を選択するお手伝いをさせていただきます。

Q 費用が心配ですが？

Ⓐ **医療保険や介護保険が使えます。**

後期高齢者医療制度や高額医療、介護保険制度の範囲内でご利用いただけます。ご負担額は、年齢や状況によって異なりますので、詳しくはご相談ください。

Nursing

あしたばの看護

訪問看護認定看護師
稲垣　知子 師長

訪問看護は、ご自宅という限られた資源の中で看護を提供します。一人暮らしの利用者さんのお宅に訪問していたある日、足がいつもよりむくんでいました。足にそっと触れたとき、何とも言えない冷たさを感じました。私が、「少しさすりましょうか？」と聞くと、うなづかれ、最初はこわばっていた表情が、少しずつ柔らかくなり「私は、最期まで家で過ごしたい。」と言われました。

看護は、手で触れることからはじまります。手で触れることは、体の様子をそっと観察するだけでなく、言葉を使わない大切なコミュニケーションになります。薬だけではない看護を大切にしていきたいです。生活の流れをできるだけ崩さずに、必要な支援を受けられるよう心がけています。「あしたば」は、その人にあわせた“いつもの暮らし”を大切にしています。

私たちの利用者さんへの想い

看護師
高桑　美弥子

訪問する時間はその人の“暮らしの中に入らせていただく時間”です。歩行器を置く場所ひとつあげても、その人の生活スペースで使いやすい場所があるはずです。「ここなら歩くときに手が届きやすいね」と利用者さんと一緒に考えて決めていきます。「これしましょう」「これがいいです」と思わず言ってしまいそうになりますが、暮らしの主役はあくまで看護師ではなく、利用者さんです。ときには見守り、ときにはお手伝いをさせていただきながら、その人がもともと持っているチカラを大切にしながら支えていけたらと思っています。その点を毎回意識して、少し背筋を伸ばしてご自宅にうかがっています。

設立から5年間で寄せられた利用者さんの声

- いつも急な症状で電話すると、すぐに訪問に来ていただいて心強いです。ありがとうございます。
- 家族にとって家で介護していて、困ったこと、何かあったらいつでも相談して来ていただける、その安心感があるため、家での介護を続けていけると思います。看護師さんに、思っていることを話せるという雰囲気はありがたいです。
- 来てもらえてありがたい。気持ち的にもしものときに助かる。
- 健康なときには気づかなかった、病んでいる人へのやさしい思いやり、看護師さんそれぞれの個性があり、話しかけたり、物言わぬ夫に懲りずに声をかけてくださり、感謝しかありません。皆さんありがとうございます！！
- 点滴を抜いてしまったり、大便が出ないなど、連絡するとすぐ対処してもらって、本当にすごく助かっています。ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。
- オムツのことや、排便のさせ方、介護のやり方などたくさん教えていただきました。また、励ましの言葉などとても心強く、感謝しております。
- がんが見つかり、主人の望む「最期は家で」という想いを叶えることができました。私一人では何もできません。看護師さんたちに床ずれの予防や体の拭き方を教えてもらい、最期まで夫婦の大切な時間を共にすることができました。心から感謝しています。

子どもの頃から変わらない
この家のにおい、ぬくもり、
家族との思い出。ここから眺める景色。
すべてが私の暮らし。私の居場所。
自分の人生に、私は最期まで
正直に生きていきたい。